

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第360集

石持 I 遺跡発掘調査報告書

一般県道東和花巻温泉線改良工事関連遺跡発掘調査

(財) 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

石持 I 遺跡発掘調査報告書

一般県道東和花巻温泉線改良工事関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、9,000カ所に及ぶ遺跡が確認されています。これら先人の残した文化財を保護し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発に伴う社会資本の充実もまた重要な施策であります。特に高速道路網を初めとする道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されるところであります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターを創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発に伴って止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、国道4号花巻東バイパスの建設に伴う一般県道東和花巻温泉線の改良工事に伴って、平成11年度に発掘調査を行いました花巻市宮野目地区に所在する石持Ⅰ遺跡の発掘調査結果をまとめたものであります。

遺跡は花巻市の市街地の北部花巻空港の南端に隣接しており、国道4号花巻東バイパス分岐点に位置し、周辺が宅地と水田に囲まれた平坦地に立地しており、隣接して調査した建設省の国道4号花巻東バイパスの同名遺跡の範囲の一部に含まれる遺跡であります。

調査の結果、当該調査範囲では縄文時代の陥し穴状遺構のみが発見されておりますが、隣接する建設省調査区では縄文時代の陥し穴状遺構のほかに平安時代の住居跡も数多く発見されており、さらに最近まで宅地としても利用され近世と推測される建物跡も発見されるなど、この地域の歴史を解明するための資料を多く提供することが出来ました。

この報告書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに、埋蔵文化財に対する理解を深めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご協力・ご援助を賜りました岩手県花巻地方振興局土木部、花巻市、花巻市教育委員会をはじめとする関係各位、遺跡の発掘調査にご協力を頂いた地元花巻市の方々に衷心よりの感謝を表します。

平成12年10月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 千葉 浩 一

例 言

- 1 本報告書は、花巻市宮野目第9地割3番地1ほかに所在する石持Ⅰ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、岩手県教育委員会と岩手県花巻地方振興局との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団が担当した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号はME16-2117、発掘調査時の略号はIMI-99である。
- 4 発掘調査面積・発掘調査期間・調査担当者は次のとおりである。

発掘調査面積	1,326㎡
発掘調査期間	平成11年8月17日～10月17日
調査担当者	期限付専門職員 平澤里香
- 5 室内整理期間と整理担当者は次のとおりである。

室内整理期間	平成11年11月1日～平成12年3月31日
整理担当者	平澤里香
- 6 本報告書の執筆と編集は早坂悟と平澤里香が担当し、高橋興右衛門が校閲した。
- 7 委託機関は次のとおりである。

基準点測量	慶長測量設計株式会社
-------	------------
- 8 発掘調査や室内整理・報告書の執筆にあたり、次の方からご指導・ご協力をいただいた。
瀬川司男(東和町ふるさと歴史資料館)
- 9 調査成果の一部を発表した現地説明会資料や調査略報と記載内容が異なる場合には、本報告書の記載を優先する。
- 10 本遺跡の発掘調査に係る出土遺物や夾炭団など関連する一切の資料は、岩手県埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

序 例言

<本 文>

I 調査に至る経過	2	3 調査の経過	12
II 遺跡の位置と環境	3	IV 検出された遺構と出土遺物	15
1 遺跡の位置	3	1 竪穴住居跡	15
2 周辺の地形	3	2 柱穴列	15
3 遺跡の立地	5	3 溝跡	17
4 周辺の遺跡	5	4 陥し穴状遺構	22
5 基本土層	9	5 遺構外の出土遺物	25
III 調査・整理の方法と経過	10	V まとめ	25
1 野外調査	10	報告書抄録	
2 室内整理	11	職員名簿	

<図 版>

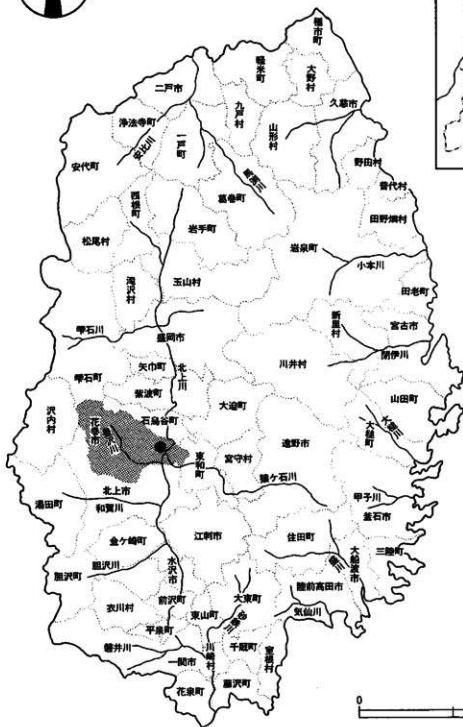
第1図 岩手県図に見る遺跡の位置	1	第7図 第1号住居跡・第1号柱穴列	16
第2図 遺跡の位置	3	第8図 第1号～第3号溝跡	20
第3図 遺跡周辺の地形	4	第9図 第4号～第6号溝跡	21
第4図 周辺の遺跡分布	8	第10図 第1号～第6号陥し穴状遺構	26
第5図 基本層序	9	第11図 第7号～第12号陥し穴状遺構	27
第6図 遺構配置図	13・14	第12図 第13号～第20号陥し穴状遺構	28

<写 真 図 版>

写真図版1 遺跡全景・遺構検出状況		写真図版3 第5号～第12号陥し穴状遺構	33
遺跡の近・遠景	31	写真図版4 第13号～第20号陥し穴状遺構	34
写真図版2 第1号竪穴住居跡・出土遺物・		写真図版5 第1号柱穴列・第1号～第6号溝跡	35
第1号～第4号陥し穴状遺構	32		

<表 >

表1 周辺の遺跡	7
----------	---



第1図 岩手県図に見る遺跡の位置

I 調査に至る経過

石持 I 遺跡は、「一般県道東和花巻温泉線、宮野目工区道路改築工事」の施工に伴って、その事業区域内に存在し、本事業の施行に伴い遺跡の保存が不可能であるため、発掘調査を実施するものである。

一般県道東和花巻温泉線は、和賀郡東和町を起点とし花巻市花巻温泉に至る延長15kmの路線であり、平成7年4月から管理区分が花巻市から岩手県へ所管替えになっている。

当該箇所は、東北横断自動車道花巻東インターに接続するとともに、東北新幹線新花巻駅と市街地を最短距離で結ぶ幹線道路であり、さらに拡張工事が進められる花巻空港や流通業務団地のアクセス道路として、今後、工事車両も含め大幅な交通量の増加が予想される。そのため、東北横断自動車道や国道4号花巻東バイパス、流通業務団地、ほ場整備事業との調整を計りながら、早期整備をめざしている。

なお、今回の工事区間は、北上川右岸を起点とし、国道4号花巻東バイパス接続までの2.6km 区間である。そのうち、国道4号花巻東バイパス接続部より東和側600m間については、花巻東バイパス新設に伴いルートが変更されている。

当該区間の施行区分については、現道見合分を建設費負担、拡幅分(歩道部分)については岩手県負担という割合で分担しており、今回の調査範囲は岩手県負担分に相当する。

この区間の埋蔵文化財については、岩手県教育委員会が平成4年度に分布調査を実施し、石持 I 遺跡の所在が確認され、平成9年度に一部が試掘調査されている。

その結果に基づいて、岩手県教育委員会は建設省東北地方建設局岩手工事事務所に対し、事業について照会した。回答を受けた岩手県教育委員会は、建設省東北地方建設局岩手工事事務所と取り扱いについて協議した結果、本調査をすることとなり、実際の発掘調査は財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業とすることとした。

石持 I 遺跡に対する発掘調査については、平成10年度を初年度とし平成11年度完了予定で着手している。平成10年度調査については、国道4号花巻東バイパス本体部を行い、平成11年度はバイパス本体部の残り分と、一般県道東和花巻温泉線を調査することとした。

これにより、岩手県教育委員会は、平成11年度事業について平成11年3月2日付け「教文第1251号」により岩手県花巻地方振興局長へ通知した。

これを受けた花巻地方振興局は、平成11年8月16日付けで花巻地方振興局長と岩手県文化振興事業団理事長との間で委託契約を締結し、実際の調査は平成11年8月17日～10月17日まで実施した。

報告書の作成に係る室内整理は、平成11年度の冬期間の平成11年11月1日～同年12月31日まで実施し、報告書は平成12年度に刊行することとした。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置 (第1・2図)

遺跡の所在する花巻市は、県東盛岡市の南約20kmに位置し、岩手県中部地域の一面を占め、南に隣接する北上市とともに地域の中核都市を形成しており、岩手県全体としては中央やや南西にあり、東北新幹線や東北縦貫自動車道といった交通の利便性の高い地域である。

花巻市は、かつては稗貫郡の一部であり、北側は稗貫郡石鳥谷町と岩手郡雫石町、東側が和賀郡東和町、南側が北上市、西側は和賀郡沢内村と接しており、総面積が384.73km²、人口72,616人の規模である。

当遺跡の所在する宮野目地区は中心的な市街地北側の一面を占め、遺跡は花巻空港の南と国道4号東宮野目交差点のすぐ東側に隣接し、JR東日本花巻空港駅の南東約2kmの地点であり、国土地理院発行の5万分1地形図では「花巻」図幅に入り、北緯39度24分～39度33分、東経140度53分～141度14分付近に位置する。



第2図 遺跡の位置

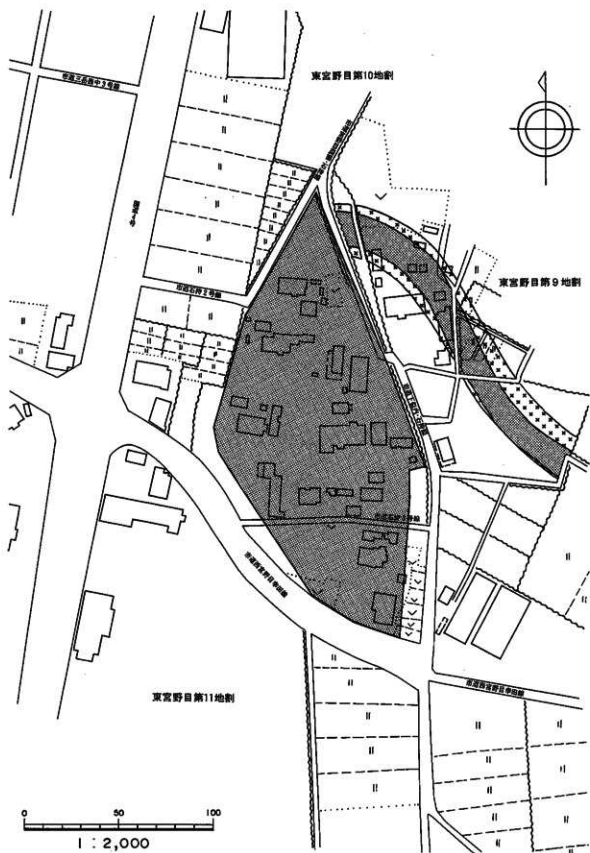
2 周辺の地形 (第3図)

花巻市は北上川の中流域にあり、市街地は北上川によって形成された新旧の段丘と河岸低地面などの平坦面にあり、大きく蛇行しながら南流する北上川沿いの段丘や沢沿いの微高地上には縄文時代をはじめとする古代や中世の遺跡が多く立地している。

北上川の両側の段丘や河岸低地の平坦地は、地質学的に東岸と西岸では大きく異なる様相を示している。

東岸地区は、古生層や中生界系の岩石を基盤とする北上山地の山体や丘陵地の西麓に接するように形成され、西岸地区に比較すると段丘の発達が小規模で全体として悪い地域である。この地区の微高地は宅地として利用されているが、西岸に比較して市街地の規模が小さく、大半は農地として使用されている。

西岸地域は、急峻で起伏に富む奥羽脊梁山脈の東側一帯を占めるが、全体が奥羽山脈の新期火山の噴火によって噴出した火山性堆積物を基盤とする地層で形成され、北上川のほか山脈の東斜面部を開析する河川や沢によって形成された発達の良好な新旧の河岸段丘や河岸低地が広く分布しており、同市の主要な市街地はこの面に発達している。特に、東麓部分はグリーンタフ層が広く分布し、この層を開析して比較的規模が大きく広い流路を持つ豊沢川と瀬川が東流し、この二河川から新期火山岩が大量に供給されることにより、北上川の流路が東に押される結果となり、西岸地域には少なくとも新旧三面の段丘面があり、特にも中位面と低位面の発達



第3図 遺跡周辺の地形

が顕著であり良く保存されている。

参考文献

花巻遺跡群—平成4年度発掘調査概報—(似内・根子館・法領・下福) 1993.3 花巻市教育委員会

3 遺跡の立地 (第3図)

当遺跡の所在する宮野目地区は、東側が北上川、西側が湯本地区、南側が瀬川、北側が湯本にそれぞれ接する花巻空港を含む範囲であり、当遺跡の立地する東部は、地形的には北上川が形成した沖積段丘面が広がり、奈良・平安時代といった古代の遺跡が多く立地している。一方、西部では洪積世の砂礫段丘のほか、各河川によって形成された開析扇状地の発達も良好であり、古代のほか縄文時代の遺跡も多く立地している。

当遺跡は約1km東側を南流する北上川に、奥羽山地を水源として約700m南を東流して合流する瀬川北側の広義の合流地点に位置し、両河川によって形成された奥羽山地の東麓から東方に扇状的に延びる氾濫平野的な標高約78m前後の砂礫段丘低位面に立地している。

発掘調査によって縄文時代には狩り場として、平安時代には集落として利用されていたことが明らかとなり、地形的に安定したのが縄文時代以降であろうことが推測される。

参考文献

花巻市教育委員会 1993.3「花巻市内遺跡群詳細分布調査報告書—矢沢地区—」

4 周辺の遺跡 (第4図、第1表)

『岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧』によると、花巻市内で確認された遺跡は、現在290箇所となっている。それを時代ごとに見ると、旧石器時代1、縄文時代161、弥生時代4、古代159、古墳3、中世42、近世11となっている(複合遺跡は時代ごとに別遺跡としている)。

ここでは、本遺跡と関連があると思われる遺跡とその特徴を挙げておく。

〈似内遺跡〉

平成10・11年度の2カ年にわたって岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(以下埋文センター)により調査された。本遺跡から東南に約1.2kmに位置し、本遺跡同様氾濫平野部の微高地上に立地している。平安時代の竪穴住居跡20棟、中世の竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡20棟前後、陥し穴状遺構67基、土坑41基、須恵器埋設遺構1基などが検出されている。また、住居状遺構から金の小個体のほか土師が200点前後出土している。

〈庫理遺跡〉

平成9年に埋文センターによって調査された。本遺跡から東方約3.2kmに位置する。平安時代の竪穴住居跡2棟、住居状遺構1棟、陥し穴状遺構1基などが検出されている。出土遺物は耳皿、刀子などのほか水鳥の姿を刻んだ土師器片が出土している。

〈猿沢遺跡〉

平成10年度に埋文センターによって調査された。本遺跡より奥羽山脈寄りの瀬川上流域に位置する。平安時代の竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡1棟、土坑19基、陥し穴状遺構4基が検出された。

〈谷地遺跡〉

平成11年度に埋文センターによって調査された。豊沢川から約2.3km北に位置する。平安時代の竪穴住居跡

が1棟検出されている。

〈万丁目遺跡〉

昭和60年度に埋文センターによって調査された。本遺跡から南西約4.8km、豊沢川北岸に位置する。古代の竪穴住居跡5棟(奈良3棟、平安2棟)、中世の竪穴住居跡2棟が検出された。また、縄文時代中期末葉から後期初頭に比定される石囲炉2基、土器埋設炉3基が確認されているほか、溝状の陥し穴状遺構が3基検出されている。

〈古館Ⅱ遺跡〉

万丁目遺跡と同年に埋文センターによって調査された。万丁目遺跡の約400m南方に位置する。古代の竪穴住居跡が29棟(奈良15棟、平安8棟、時期不明6棟)検出されている。出土遺物は土師器、須恵器、刀子のほか羽口や鉄滓などが出土している。

〈熊堂古墳群〉

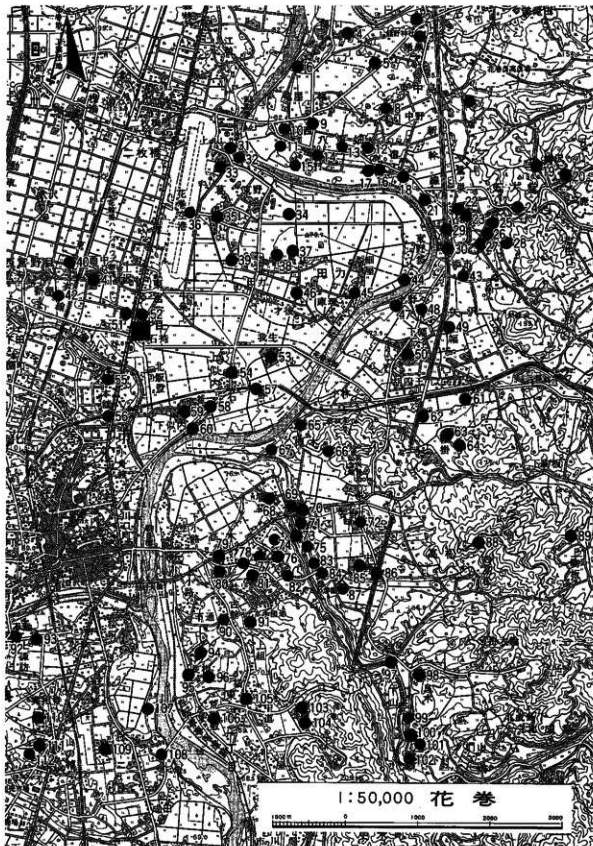
古館Ⅱ遺跡の西方約500m、熊野神社周辺一帯に広がっているのが熊堂古墳群である。かつては50～60基の古墳が存在したと言われるが、後世の開墾などによって現在ではほぼ壊滅状態にある。江戸時代には出土品を藩公に献上した旨の記録があり、蕨手刀、方頭太刀、玉類、和同開珎などが出土している。

引用・参考文献

- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 岩手県教育委員会 | 1997 「岩手県埋蔵文化財包蔵地一覽」 |
| 花巻市教育委員会 | 1995 「平成6年度花巻市内遺跡発掘調査報告書」 |
| 花巻市教育委員会 | 1997 「平成8年度花巻市内遺跡発掘調査報告書」 |
| 花巻市教育委員会 | 1998 「平成9年度花巻市内遺跡発掘調査報告書」 |
| 花巻市教育委員会 | 1999 「平成10年度花巻市内遺跡発掘調査報告書」 |
| 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 1985 「万丁目遺跡発掘調査報告書」 岩文振埋102集 |
| 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 1985 「古館遺跡発掘調査報告書」 岩文振埋106集 |
| 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 1998 「庫理遺跡発掘調査報告書」 岩文振埋302集 |
| 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 1999 「埋蔵文化財調査略報(平成10年度)」 岩文振埋311集 |
| 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 2000 「埋蔵文化財調査略報(平成11年度)」 岩文振埋340集 |
| 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | 1999 「狼沢Ⅱ・高松寺・上駒板遺跡発掘調査報告書」 岩文振埋319集 |

表1 周辺の遺跡

No.	遺跡名	種別	時代	検出遺構・出土遺物	所在地	No.	遺跡名	種別	時代	検出遺構・出土遺物	所在地
1	石持Ⅰ	散布地	古代	土師器	花巻市宮野目9, 10	42	先屋	散布地	縄文/古墳	縄文土器・石器・石核	花巻市西宮野目
2	猪鼻	散布地	縄文/古代	縄文土器・土師器	石鳥谷町字関口	43	浜市	散布地	縄文/弥生	縄文土器・弥生土器・石環	花巻市矢沢字浜市
3	猪鼻Ⅱ	散布地	古代	須恵器	石鳥谷町字八重畑	44	東野袋	散布地	古代	土師器	花巻市田力8地割
4	下館Ⅱ	散布地	古代	土師器片	石鳥谷町字関口	45	麻理	散布地	縄文/古代	縄文土器・土師器	花巻市田力8地割
5	関口	散布地	古代	土師器	石鳥谷町字八重畑	46	田力中野	散布地	縄文/平安	縄文土器・土師器	花巻市宮野目才後
6	関口	散布地	古代	土師器、須恵器	石鳥谷町字関口	47	矢野古堂	集落跡	古代	土師器・須恵器・瓦葺	花巻市矢沢字古堂
7	反町	溝・竪溝	縄文/古墳	縄文土器、古墳・住居跡	石鳥谷町字八重畑	48	上野々	散布地	縄文	石斧・石器	花巻市矢沢9地割
8	新田	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字八重畑	49	上幅	集落跡	縄文/古代	動土器、土師器、石環	花巻市
9	荒野	散布地	古代	土師器	石鳥谷町字八重畑	50	下幅	散布地	縄文/平安	動土器、土師器、石環	花巻市矢沢字古倉
10	大西	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字八重畑	51	三岳	散布地	古代	土師器	花巻市西宮野目7
11	大西Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字八重畑	52	石持Ⅱ	散布地	古代	土師器	花巻市東宮野目10
12	稲荷	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字八重畑	53	我生	散布地	古代	土師器	花巻市内
13	馬場田	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字八重畑	54	似内	集落跡	古代	土師器・須恵器	花巻市上似内10
14	馬場田Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字八重畑	55	本館Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器・石器	花巻市本館
15	中村	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字八重畑	56	本館Ⅱ	散布地	古代	陶土	花巻市本館
16	大西橋	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字八重畑	57	上似内	散布地	縄文	土師器・須恵器	花巻市上似内
17	大西橋Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字八重畑	58	下似内	散布地	縄文	土師器・須恵器	花巻市下似内
18	宿	集落跡	縄文/古代	縄文土器・土師器	石鳥谷町字八重畑	59	下西	散布地	古代	土師器	花巻市下似内
19	寺塚古塚	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字五大堂	60	下東	散布地	古代	土師器・須恵器	花巻市似内
20	餅沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字五大堂	61	小松原	散布地	古代	土師器・須恵器	花巻市矢沢11地割
21	飯盛(たのめ)	散布地	平安	土師器	石鳥谷町字五大堂	62	谷沢八幡	集落跡 城跡跡	古代 古代	聖徳太子御遷御跡・土師器・須恵器・瓦葺・石環	花巻市矢沢字八幡
22	安城遺跡Ⅰ	散布地	縄文	剥片	石鳥谷町字五大堂	63	経塚森	経塚	平安	土師器・塚2基	花巻市高松27地割
23	安城遺跡Ⅱ	散布地	縄文/古代	縄文土器・土師器	石鳥谷町字五大堂	64	塚場	集落跡	江戸	聖徳太子御遷御跡・土師器	花巻市高松2地割
24	沢流	散布地	縄文/古代	縄文土器・土師器	石鳥谷町字五大堂	65	覆ノ木Ⅰ	散布地	古代	縄文土器・石器	花巻市矢沢字覆ノ木
25	長沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字五大堂	66	覆ノ木Ⅱ	散布地	古代	土師器・土師器・石環	花巻市矢沢字覆ノ木
26	長沢Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字五大堂	67	覆ノ木Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器・弥生土器	花巻市矢沢字覆ノ木
27	長沢Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字五大堂	68	塚袋Ⅱ	散布地	縄文/古代	070土器、陶器、土師器	花巻市高木字塚袋
28	長沢Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字五大堂	69	高松Ⅰ	散布地	縄文/弥生	縄文土器	花巻市高松2地割
29	高畑Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	石鳥谷町字五大堂	70	高松Ⅱ	散布地	古代	動土器、土師器、土師器	花巻市高松2地割
30	高畑	集落跡	縄文	縄文土器	石鳥谷町字五大堂	71	高松Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器・弥生土器	花巻市高松3地割
31	宮野目	城跡跡	平安	聖徳太子御遷御跡・土師器・須恵器・瓦葺・石環	花巻市宮野目方八丁	72	明ヶ沢	散布地	散形/平安	縄文土器	花巻市高松9地割
32	上ノ山館	城跡・散布地	縄文、古代 ~中世	縄文土器・石器・土師器・須恵器・瓦葺	花巻市葛字上ノ山	73	塚袋Ⅰ	散布地	縄文/弥生	縄文土器・石器・土師器	花巻市高木字塚袋
33	上ノ山	散布地	縄文/古代	縄文土器	花巻市葛字上ノ山	74	妻ノ神	散布地	縄文	縄文土器	花巻市高木30地割
34	葛	散布地	縄文/平安	縄文土器・土師器	花巻市宮野目田力	75	安野Ⅰ	集落跡	縄文/古代	縄文土器	花巻市5・6地割
35	源明Ⅰ	散布地	平安	須恵器	花巻市宮野目葛	76	久田野Ⅰ	集落跡	縄文	土師器・縄文土器・石器	花巻市高木20地割
36	山の神	散布地	縄文	縄文土器・石器・土師器	花巻市葛	77	上台Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器・石器・土師器	花巻市高木18地割
37	馬立Ⅱ	散布地	平安	土師器	花巻市宮野目馬立	78	上台Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器	花巻市高木19地割
38	馬立Ⅰ	散布地	平安	土師器	花巻市宮野目馬立	79	藪前堂	散布地	縄文/古代	縄文土器	花巻市高木19地割
39	源明Ⅱ	散布地	古代	土師器	花巻市宮野目田力	80	上台Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	花巻市高木19地割
40	西宮野目	散布地	縄文	動土器・土師器・石環	花巻市西宮野目	81	石神	集落跡	縄文	縄文土器・土師器・須恵器	花巻市石神町
41	西中	散布地	縄文/平安	縄文土器・土師器・須恵器	花巻市西宮野目	82	久田野Ⅱ	集落跡	縄文	聖徳太子御遷御跡・土師器、石環	花巻市高木20地割
						83	安野Ⅱ	散布地	縄文/古代	縄文土器・土師器・石器	花巻市高松6地割

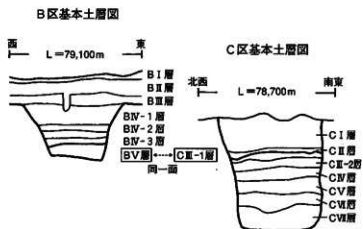


第4図 周辺の道跡分布

5 基本土層 (第5図)

当遺跡周辺部の地形の現状はほぼ平坦な地形面であるが、試掘段階での土層観察では、基盤を構成する段丘礫層に到達するまでの深さが一律ではなく、地点によって違いが見られたことから、便宜的に水路や道路を境としてA区～D区まで地点を分けて呼称した。そのなかで、遺構の検出されたB区とC区について基本土層を観察して記録した。結果的には、段丘礫層の面の起伏が激しく、そのことによって欠如している土層が多いことに起因することが判明した。

以上から、当遺跡での基本土層はB・C区の両地点で作成した。



第5図 基本層序

B 区

- B I層** 黒褐色 シルト質 (10YR 2/3) 現表土で層厚は地点によって差があるものの概ね15cm～20cm位。雑草の根を多量に含み、一部は最近まで農地として利用された。やや粘性があるものの、締まりなく軟らかい。平安時代の集落地点では遺物を包含する層である。
- B II層** 黒褐色 シルト質 (10YR 2/3) I層の起源となった。やや粘性が有り、草根の達しない締まった層。層厚15cm～30cmと地点により差がある。10YR 4/3・4/4・3/4の褐色シルトの小塊が微量点在する。
平安時代の集落地点では遺物を包含する層である。
- B III層** 黒色 シルト (10YR 2/1) やや粘性があるほかやや締まっている。微量のB II層の小粒子と、10YR 3/4の黄褐色シルトの小塊をまばらに含む。遺物の直接的な出土は無いが、本来は縄文時代の層の可能性が考えられる。
- B IV層** 当地区の遺構はいずれも当層の上面で検出されているが、基本的には無遺物層である。層全体を観察すると、堆積状況や鉄分の混入量などによって色調が微妙に異なり、平面的な層理を示す。色調によって細分されるが、全体的な層厚は把握していない。
- 1層 黄褐色 粘土質シルト (10YR 4/3) やや締まる。黒色土粒と鉄分が少量点在する。
- 2層 褐灰色 粘土質シルト (10YR 4/1) 土性は1層と同様。
- 3層 灰黄褐色 粘土質シルト (10YR 4/2) 同上
- 4層 褐灰色 粘土質シルト (10YR 4/1) 同上
- B V層** にぶい黄褐色 粘土 (10YR 5/8) 締まりのある粘性の強い粘土。

C 区

- C 0層** 極暗褐色 粘土質のシルトであるが、水田部分の畦畔であり、全体として攪乱を受けた層。
- C I層** 黒色～暗褐色土 (7.5YR 3/4) 水田面の表土で層厚20cm位。やや粘性のある比較的締まった層。
- C II層** 浅黄色 砂質 (7.5YR 7/3) 水田耕作に係る客土された層と推測され、層厚15cmほど。

CⅢ層 当地区の遺構検出面であり、無遺物層である。地点により色調が異なりさらに细分される。

1層 暗灰黄色粘土質(2.5YR 5/2) 強い粘性を持ちやや締まる。

2層 にふい黄色粘土質(2.5YR 6/3) 色調以外は1層と同様

CⅣ層 灰色 (5Y 5/1) 色調に違いはあるものの全体としてⅢ層と基本的に共通。

CⅤ層 緑灰色 粘土質 (7.5GY 5/1) その他はⅢ層を参照。

CⅥ層 暗緑灰色 砂質 (7.5GY 4/1) Ⅲ層を参考のこと。

CⅦ層 礫層 基盤をなす段丘礫である。

Ⅲ 野外調査と整理の方法

1 野外調査

本調査は、平成10年度から継続して調査した建設省受託分の同名遺跡の北部の一面を占めており、本来は同一遺跡の一部分であることから、両調査区に共通する調査方法で調査を進めることとしたため、基準点の設置や遺構名の呼称など統一した方法による。

〔調査区の設定〕

調査区の設定は以下のとおりにした(第6図)。

当遺跡の調査範囲が3条の水路と現道により分断されていることから、調査の便宜上全体をA～D区に分けて呼称したが、グリッド割では建設省調査区も含めて一括で区割りをした。

実際の区割りは、国土座標第X系 X=-65,250,000m、Y=25,600,000mを原点とし、全体をカバーする50m×50mの大グリッドを設定し、この50m×50mの範囲をさらに5m×5mの小グリッドで設定した。

当調査範囲の調査区割りに直接的に使用したのは補点2のX=-65,275,000m、Y=25,700,000mである。

大グリッドの呼称は、西から東に向かってⅠ～Ⅴのローマ数字、北から南に向かってはA～Eの大文字アルファベットを付し、その組み合わせによりⅠA区やⅡA区と呼称した。小グリッドは、大グリッドの北西隅から北東隅に向かって1・2・3～0までアラビア数字、北西隅から南西隅に向かっては小文字アルファベットでa～jまで付し、小グリッドの実際的な呼称は縦軸と横軸の組み合わせにより1a～1jのように呼称し、遺跡全体では大グリッドと小グリッドを組み合わせるとⅠA1a区と言うように呼称した。

設定した基準点と補助点の座標値及び水準値は下記のとおりである。

基2	X=-65,350,000m	Y=25,650,000m	H=78.489m
基3	X=-65,350,000m	Y=25,700,000m	H=78.489m
補2	X=-65,275,000m	Y=25,700,000m	H=78.471m
補3	X=-65,300,000m	Y=25,650,000m	H=78.346m
補4	X=-65,400,000m	Y=25,725,000m	H=78.888m

〔粗掘り・遺構の検出・精査・遺物の取り上げ・実測図の作成〕

雜物を撤去した後、調査範囲内に任意でトレンチを設定して試掘を行い、遺物の包含状況、遺構の確認面、原地形などの把握に努めた。

その後、表土除去作業の掘り方は重機を使用して進め、表土及び耕作土・攪乱部分などの掘り下げが終了した後、遺構検出を兼ねて遺構検出面まで人手で掘り下げ、その結果、A区・D区では遺構の検出や遺物の出土が無いことを確認し、この時点で調査終了とし、B区とC区については検出された遺構の精査を進めた。

調査地点は最近まで農地と宅地として利用されていたことにより攪乱が著しいことや、用水路が隣接して存在するため漏水や湧水が激しく、雨天時には排水不良となり排水作業に難渋する地点であった。

検出された遺構の精査は、住居跡は四分法、陥し穴状遺構は二分法を基本として、適宜、土層観察用の畦畔を設定して掘り下げた。

遺構内から出土した遺物の内、埋土内出土は埋土内として一括し、床面出土は区別して取り上げた。

検出された遺構の平面図や断面図は縮尺20分1で実測図を作成したが、必要によっては縮尺10分1も併用した。また、平面図の作成に当たっては簡易測り方測量を基本としたが、一部平板測量によって場合もある。

〔遺構の名称〕

検出された遺構の名称は、住居跡はRA、柱穴列はRX、溝跡はRM、陥し穴状遺構はRZと略号化して呼称し、複数検出された場合は1001から順次連番を付して呼称した。

〔写真撮影〕

野外調査での写真撮影は、35mm版2台使用し、モノクロとカラーリバーサルに使い分けた。6×7cm版の1台はモノクロ専用とし、ボラロイドは必要に応じて適宜撮影し、メモを写真に直接書き込むなどで使用した。

また、使用したカメラは建設省分の調査と併用したため、一部の写真が建設省分のアルバムに混在している。

2 室内整理

〔遺構図面整理〕

現場で作成した遺構関係の実測図は、点検・合成など必要に応じた作業をした後、報告書掲載用のトレース原稿を作成してトレースした。

遺構関係の図面は、縮尺20分1を基本としたが、紙面の関係で不定縮尺とした場合もあるので、それぞれの図版にスケールを付し縮尺を明確にした。

〔遺物整理〕

出土した遺物は少量であるが、水洗・記名した後接合作業を行い、接合後は実測、接合不能の破片は実測個体と合わせて登録し、報告書掲載写真の撮影を行った。

〔写真撮影と引き伸ばし〕

現地で撮影した遺構の写真はアルバムに整理した後、掲載に必要なカットのみを選択し、引き伸ばしをして掲載した。

遺物の撮影は当埋蔵文化財センターの撮影技師が担当し、現像と引き伸ばしは外部に委託して行った。

報告書掲載の遺構の縮尺は不定で、遺物は2分の1である。

〔遺構計測基準と記載〕

検出された遺構の形状や計測値は、本報告書独自の部分もあるが、基本的には建設省分石持I遺跡の報告書作成基準に準じて進め、その具体は以下のとおりである。

- | | |
|-----------|---------------------------------------|
| ①開口部径(縦) | 検出面での最大径の測定値である |
| ②開口部径(横) | セクションポイントまたはその付近で、その遺構の平均的な部位の計測値である。 |
| ③底部径(縦・横) | 開口部径での計測位置の底部径である。 |

- ④深さ 遺構検出面から底面までの深さを断面図上で計測。
⑤長軸方向 座標軸北からの角度を計測。角度が90度未満になる方向で東傾か西傾かで表現。
⑥分類

開口部での平面形態

- A型 溝状(短軸径が狭く、細長い形態を示すもの)
B型 槽円形、長方形

長軸方向の断面形態

- I型 逆台形(開口部から下方へ、両端壁面が傾斜しながらほぼ直線的にすぼまる形。開口部>底面)
II型 長方形(開口部から底部にかけて、両端壁面がほぼ垂直に下がる形。開口部=底面)
III型 台形(開口部下位および壁面中位で両端壁面が外反して広がる形。)
IV型 不定形(どちらか一方の壁面がI型かII型かIII型に属し、アンシンメトリーを呈した形)

短軸方向の断面形態

- 1型 Y字状(中位から上位の壁が外反し、下方が傾斜または直線的で、Y字型となる形。)
2型 V字状(底部から壁面が直線的に外傾しV字状になる形)
3型 U字状(底面が丸みを持ち壁面が直線的でU字型となる形)
※ V字状とU字状の区別は、開口部径と底部径の差が10cm以下がV字状、10cm以上がU字状。

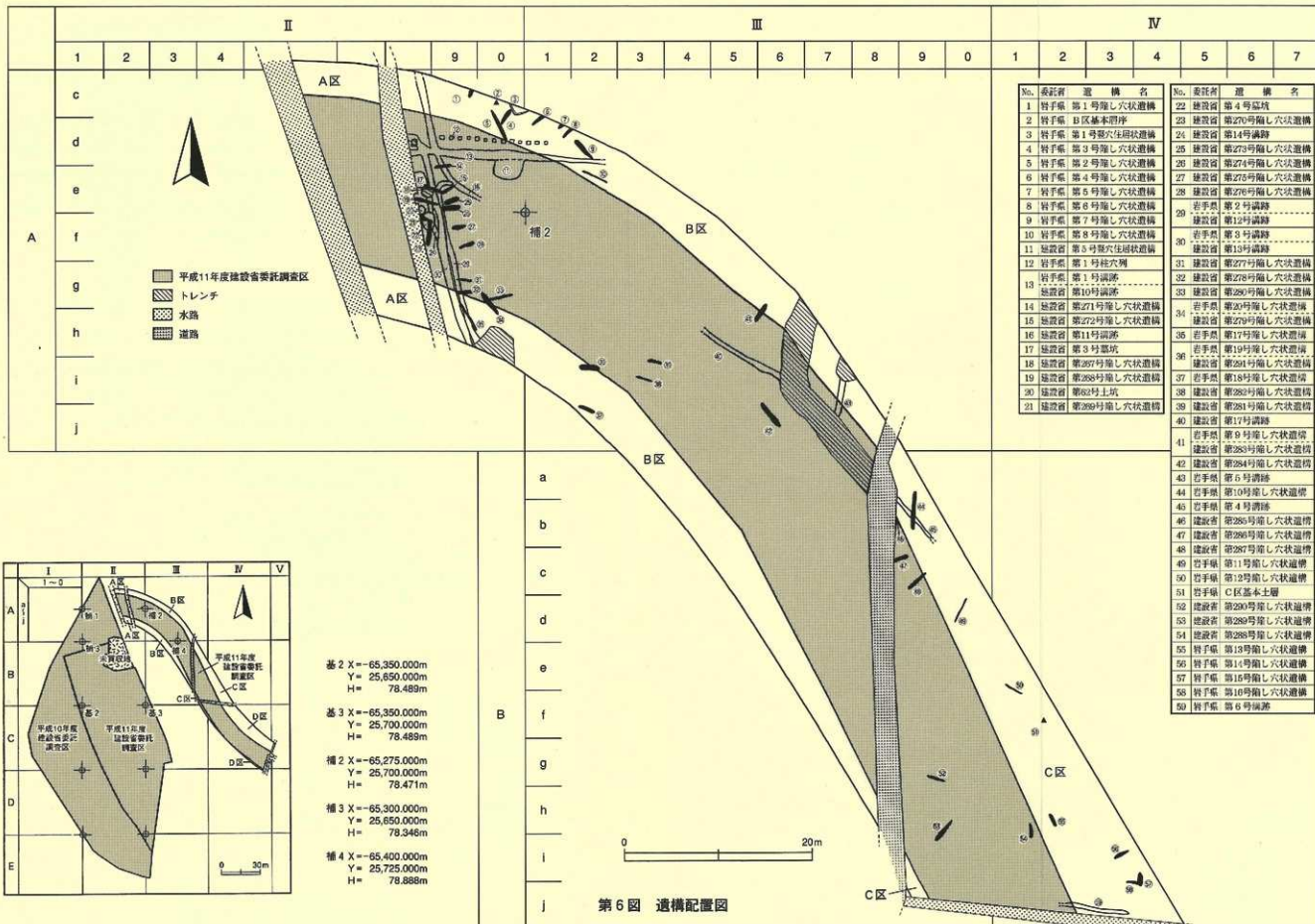
3 調査の経過

建設省分調査範囲に隣接するため調査範囲がやや流動的で、当初の982㎡が調査中に変更となり、最終的に1,326㎡となった。

平成11年8月17日に調査を開始し、雑物撤去をしてトレンチによる試掘調査を経て、8月23日から同月28日まで重機による粗掘り・表土除去作業を行い、終了後、直ちに遺構検出を進め検出された遺構は並行して精査を行った。

遺構検出の結果、A区とD区には遺構が存在しないことが判明し、この時点でこの地区は調査終了とした。

引き続き終了まで遺構の精査を継続して進めたが、住居跡が少なく遺構の主体が陥し穴状遺構であったため順調に推移し、平成11年10月17日に岩手県教育委員会の終了確認を受けて同日終了した。



基2 X=65,350.000m
 Y=25,650.000m
 H=78.489m

基3 X=65,350.000m
 Y=25,700.000m
 H=78.489m

柱2 X=65,275.000m
 Y=26,700.000m
 H=78.471m

柱3 X=65,300.000m
 Y=26,650.000m
 H=78.346m

柱4 X=65,400.000m
 Y=25,725.000m
 H=78.888m



IV 検出された遺構と出土遺物

当遺跡では竪穴住居跡1棟、柱穴列1条、陥し穴状遺構20基、溝跡1条を検出した。遺物の出土が非常に少なく、集落の中心から外れていることに起因すると推測される。(第6図)

1. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は1棟の検出である。

(1) 1号竪穴住居跡(RA1001)

遺構 (第7図、写真図版2)

位置 当調査範囲の北西端ⅡA0c区に位置し、北側は調査範囲外に延びている。建設省分の調査範囲は多くの住居跡を検出している。

検出・埋土 黒褐色～黒色シルトの広がりとして重複遺構も無く単独で検出された。

規模・平面形 部分検出のため全体規模は不明であるが、一辺1.5m以上の規模を持つ隅丸方形と推測。

主軸方位 カマドの検出がないので明確でないが、磁北に対してやや西に傾くと推定される。

壁・床面 壁は床面から軽く外反し、床面は掘形面に黒色土と黄褐色土の混合土で貼り床され、やや狭く締る。

付属施設 柱穴・カマド・壁溝とも検出されていない。

遺物 (写真図版2)

土師器の小破片が2点出土している。器種は定かでないが、ロクロ使用成形された甕の体部破片と推測される。

性格と時期

遺物が小破片のため断定は出来ないが、形状から推測すると平安時代の竪穴住居跡の一部と思考される。

2. 柱穴列

方形の土坑が13基並んで検出されたが、検出状況からみて樹木の植え込み穴の可能性も推測されるものの、確定出来る結論が得られなかったことから、柱穴列として報告する。

(1) 1号柱穴列(RX02)

遺構 (第7図、写真図版5)

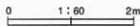
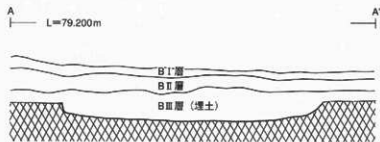
位置 調査範囲西端部のグリッドⅡA～ⅢA区にかけてほぼ東西方向に直線的に13基の柱穴状土坑が並び、西7基は建設省範囲、東6基が当調査範囲に位置し当報告では全体を記載する。

検出状況 明灰褐色粘土質シルト地山面に黒色土の広がりとして、重複遺構もなく単独で検出された。

規模と形状 全長約11.50mの距離に、長辺35cm～50cm、短辺約30cm～45cmの規模があり、平面形はやや隅丸の方形や長方形をなす土坑が13基並んでいる。検出面からの深さは10cm～30cmとバラツキがあり、底面のレベルも一定しない。なお、柱据え方は確認出来なかった。柱穴間の間隔は98cm～88cmとバラツキがあり、全体では96cm～98cmに8例該当し、平均では約94cmとなる。

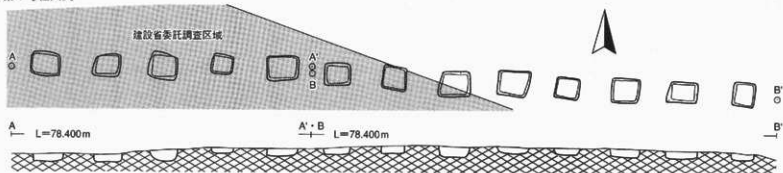
埋土 黒色シルトの単層であるが、部分的に地山の小塊が混入する。

第1号雙穴住居跡



第7図 第1号住居跡・第1号柱穴列

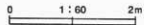
第1号柱穴列



A L=78.400m

A' B L=78.400m

B'



遺物

出土していない。

性格と時期

遺物の出土がないため所属時期は不明のほか、性格を明確に示す柱掘り方も未確認のため樹木の植込み穴の可能性をまったく比定出来ないが、取りあえず柱穴列としておく。

3. 溝 跡

岩手県工事担当部分に6条の溝跡が検出されているものの、いずれも建設省工事担当部分にまたがり、さらに調査範囲外に延びる形で検出されており全体的なことは不明である。

(1) 1号溝跡 (RM1001・1002)

遺 構 (第8図、写真図版5)

位置 調査範囲西端部のグリッドⅡA8c～ⅡA8d区～ⅢA2d区に位置し、第5号住居状遺構と重複している。当溝跡が新しい。

軸方向 N-167°-E～N-98°-E

埋土 にぶい黄褐色土まじりの黒褐色土主体。

規模と形状 規模は上端幅40cm～100cm、下端幅18cm～30cm、深さ15cm～40cmで、全長は南北方向に8m、東西方向に18m、合わせて26mである。断面形はY字状を示す部分もあるが、緩いU字状をなす部分が多い。方向は、調査区北端隅からほぼ南-北に延び、ⅡA8d区で東方向に曲がった後、ⅢA2d区に達する。東端部は上部が剛平されているために検出されなかった。

遺 物

出土していない。

時期と性格

遺物の出土がないため明確な時期は不明であるが、埋土の状況から比較的新しい遺構と推測でき、性格的には水路跡かと考えられる。

(2) 2号溝跡 (RM1004)

遺 構 (第8図、写真図版5)

位置 調査範囲西端部のグリッドⅡA9c～ⅡA9h区に位置し、第11号溝跡(建設省工事区)と重複するが、新旧関係は不明である。

軸方向 N-168°-E～N-179°-E

埋土 色調は黒褐色であるが、土性はシルトと粘土質シルトに分けられ、黄褐色シルトのブロックが混入する。

規模と形状 規模は上端幅40cm～80cm、下端幅10cm～60cm、深さ17cm～30cmで、全長は約19mあり、南端部は調査区外に延びる。断面形は緩いU字状である。方向は北-南方向でほぼ直線的である。

遺 物

出土していない。

時期と性格

時期は明確にし難いが、埋土の状況から新しい遺構と推測でき、かつての水路跡と考えられる。

(3) 3号溝跡 (RM1005)

遺構 (第8図、写真図版5)

位置 調査範囲西端部のグリッドⅡA8d区～ⅡA9e区～ⅡA9h区に位置し、2号溝跡の西側に隣接してほぼ並行する溝跡であり、南は調査範囲外、北は建設省工事区に延び、重複するいずれの遺構より当溝跡が新しい。

軸方向 N-168°-E

埋土 黒褐色土のシルトと粘土質シルトが堆積し、2層に細分される。全体に黄褐色シルト粒が混入する。

規模と形状 規模は上端幅70cm～80cm、下端幅20cm～30cm、深さ18cm～31cmで全長約23mあり、南端部は調査区外に延びる。断面形は緩いU字状をなす。方向は北-南方向でほぼ直線的である。

遺物

出土していない。

時期と性格

時期は不明であるが、埋土の状況から新しい遺構と推測でき、水路跡の可能性が考えられる。

(4) 4号溝跡 (RM1007)

遺構 (第9図、写真図版5)

位置 調査範囲ほぼ中央部のグリッドⅢA8a区・ⅢA9b区に位置し、北西端は現用道路下、南東端は掘り込みが浅いせいか自然に立ち消えとなっている。第10号陥し穴状遺構と重複しているが、当溝跡が古い。

軸方向 N-40°-E

埋土 黒褐色土のシルトと粘土質シルトが堆積し、2層に細分される。全体に黄褐色シルト粒が混入する。

規模と形状 規模は上端幅30cm～40cm、下端幅15cm～25cm、深さ6cmと浅く、全長約5.5mある。方向は北西-南東方向で、ほぼ直線的である。

遺物

出土していない。

時期と性格

時期は不明であるが、埋土から新しい遺構と推測でき、水路跡と推測。

(5) 5号溝跡 (RM1008)

遺構 (第9図、写真図版5)

位置 調査範囲中央部のグリッドⅢA7i区～ⅢA7h区に位置し、北端は攪乱で一部不明であるが、調査範囲外に延びる様相をしめす。重複する遺構はない。

軸方向 N-10°-E

埋土 黒褐色土シルトの単層であり、全体に黄褐色シルト粒が混入する。

規模と形状 規模は上端幅60cm、下端幅40cm、深さ10cm～16cmで全長約3.7mあり、南端部は建設省工事区に延びる。断面形は緩いU字状をなす。方向は北-南方向でほぼ直線的である。

遺物

出土していない。

時期と性格

時期は不明であるが、埋土の状況から新しい遺構と推測でき、水路跡の可能性が考えられる。

(6) 6号溝跡 (RM1009)

遺構 (第9図、写真図版5)

位置 調査範囲南端部のグリッドIVB3i区、IVB3j区に位置し、東は自然に立ち消え、西は建設省工事区に延び、重複する遺構はない。

軸方向 N-80°-W

埋土 黒色シルトの単層であり、全体に黄褐色シルト粒が混入する。

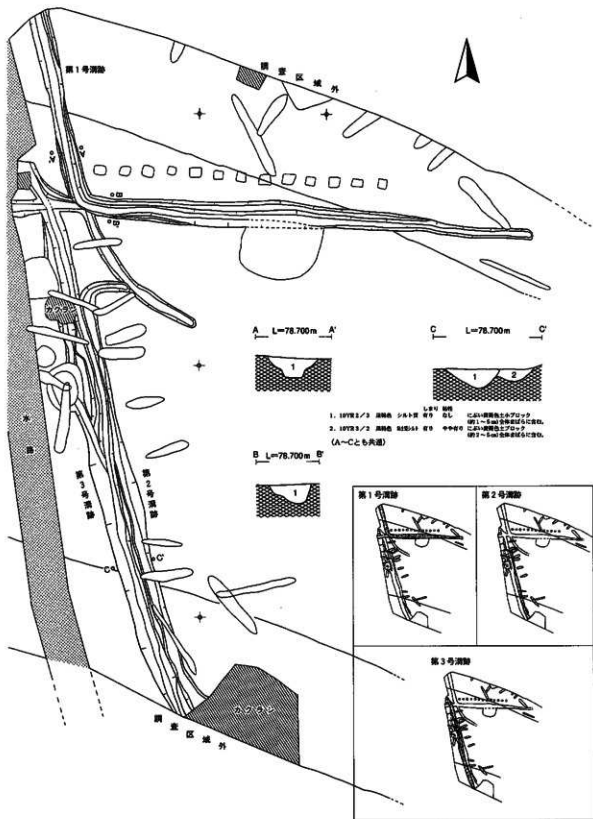
規模と形状 規模は上端幅40cm、下端幅25cm、深さ6cm~14cmで全長約6.7mある。断面形は緩いU字状をなす。方向はほぼ東-西方向でほぼ直線である。

遺物

出土していない。

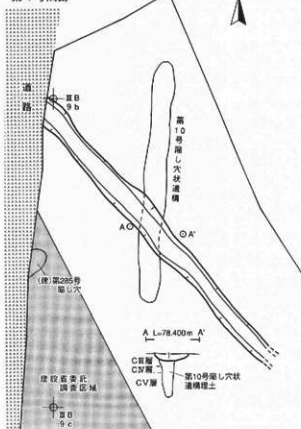
時期と性格

時期は不明であるが、埋土の状況から新しい遺構と推測でき、水路跡の可能性が考えられる。

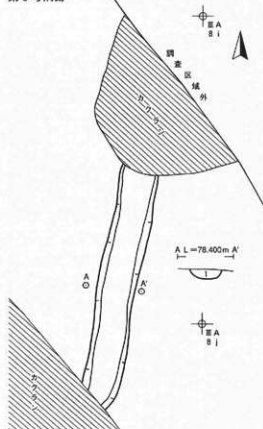


第8図 第1号~第3号遺跡

第4号溝跡



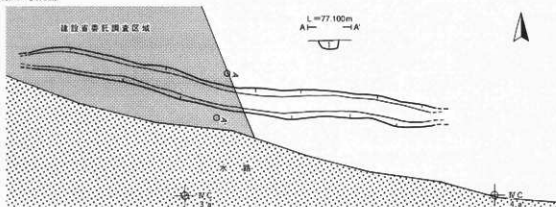
第5号溝跡



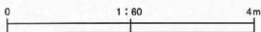
第4号溝跡 (RM1007) しまり 粘性 におい黄褐色土小ブロック(0.1~1cm)全体まばらに多量含む。
 1. 10YR 2/1 灰色 シルト質 有り(強) やや有り 下層ほど細かく多い。鉄分も多い。

第5号溝跡 (RM1008) しまり 粘性 におい黄褐色土小ブロック(約1~5m)全体まばらに含む。
 1. 10YR 2/3 黒褐色 シルト質 有り やや有り

第6号溝跡



第6号溝跡 (RM1009) しまり 粘性 におい黄褐色土小ブロック(0.1~1cm)全体まばらに多量含む。
 1. 10YR 2/1 黒色 シルト質 有り(強) やや有り 下層ほど細かく多い。鉄分も多い。



第9図 第4号~第6号溝跡

4. 陥し穴状遺構

遺構名	第1号陥し穴状遺構 (RZ1001)	第2号陥し穴状遺構 (RZ1002)	第3号陥し穴状遺構 (RZ1003)	
図版・写真図版	第10図、写真図版2	第10図、写真図版2	第10図、写真図版2	
位置	ⅡA9cグリッド	ⅡA0dグリッド	ⅡA0dグリッド	
検出状況	北側が調査区外に延びる	全体を検出	全体を検出	
重複遺構	なし	3号陥し穴状遺構	2号陥し穴状遺構	
形状	平面形	細い溝状と推測	細長い溝状	
	断面形	細いU字形～漏斗状	漏斗状的	Y字状的
規模	開口部径	90以上×45以上	382×40	195×48
	底部径	85以上×15以上	340×12	165×11
(cm) 深さ	検出面-70、地表-100	検出面-70	検出面から68	
埋土	黒色・黒褐色のシルトと黒褐色と灰黄褐色の粘土質シルトが堆積し、全体が6層に細分されている。	3層に細分されるが、黒褐色と黒色のシルトと粘土質シルトが堆積する。	黒色シルトを主に黒褐色の粘土質シルトが堆積し、3層に細分されている。	
遺構の特徴	壁の上部が軽く開き、底面はほぼ平坦である。	長軸両端の壁がやや開く形で、底面にはやや起伏がある。	北端の底面沿いの壁が大きく内傾している。	
出土遺物	なし	なし	なし	
時期	縄文時代と推測	縄文時代と推測	縄文時代と推測	

遺構名	第4号陥し穴状遺構 (RZ1004)	第5号陥し穴状遺構 (RZ1008)	第6号陥し穴状遺構 (RZ1005)	
図版・写真図版	第10図、写真図版2	第10図、写真図版3	第10図、写真図版3	
位置	ⅢA1dグリッド	ⅢA1dグリッド	ⅢA1dグリッド	
検出状況	北端は調査区外に延びる		北端は調査区外に延びる	
重複遺構	なし	なし	なし	
形状	平面形	溝状と推測	溝状と推測	
	断面形	Y字状的	箱葉研状	上が軽く開くU字状
規模	開口部径	155以上×52以上	70以上×50以上	140以上×35以上
	底部径	160以上×15以上	50以上×20以上	70以上×25以上
(cm) 深さ	検出面-70、地表-90	検出面-70、地表-105	検出面-60、地表-90	
埋土	黒褐色のシルトと粘土質シルトを主体に黒色のシルトが堆積し、3層に細分される。	3層に細分されるが、黒褐色のシルトと粘土質シルトを主体に黒色シルトが堆積している。	黒色と黒褐色シルトを主体に暗褐色の粘土質シルトが堆積し、4層に細分される。	
遺構の特徴	壁の上部が軽く開き、底面はほぼ平坦である。	詳細は不明であるが、底部中央が深くなるらしい。	詳細は不明であるが、底部中央が深くなるらしい。	
出土遺物	なし	なし	なし	
時期	縄文時代と推測	縄文時代と推測	縄文時代と推測	

遺構名	第7号陥し穴状遺構 (RZ1006)	第8号陥し穴状遺構 (RZ1007)	第9号陥し穴状遺構 (RZ1022)
図版・写真図版	第11図、写真図版3	第11図、写真図版3	第11図、写真図版3
位置	ⅢA 2 d グリッド	ⅢA 2 e グリッド	ⅢA 6 h グリッド
検出状況	全体を検出	全体を検出	全体を検出
重複遺構	1号溝跡	なし	なし
形状	平面形	溝状	細長い溝状
	断面形	U字状	細いU字状
規模 (cm)	開口部径	282×50	300×20
	底部径	332×20	290×8
	深さ	検出面から70	検出面から55
埋土	黒褐色のシルトと粘土質シルトを主体にして、黒色のシルトが堆積し、3層に細分される。	黒褐色のシルトと粘土質シルトを主体にして、黒色のシルトが堆積し、3層に細分される。	黒色と黒褐色のシルトと粘土質シルトが堆積し、2層に細分されている。 黄褐色土の小塊が混在する。
特徴	長軸両端の壁が内傾している。底面が軽く起伏し、中央部がやや深い。	長軸両端の壁がほぼ直立し、底面は端より中央部がやや深くなる。	長軸両端の底面付近の壁が挟られる。底面には軽い起伏があるが總じて平坦である。
出土遺物	なし	なし	なし
時期	縄文時代と推測	縄文時代か	縄文時代か

遺構名	第10号陥し穴状遺構 (RZ1024)	第11号陥し穴状遺構 (RZ1027)	第12号陥し穴状遺構 (RZ1028)
図版・写真図版	第11図、写真図版3	第11図、写真図版3	第11図、写真図版3
位置	ⅢB 9 b グリッド	ⅢB 0 d グリッド	ⅣB 1 e・f グリッド
検出状況	全体を検出	全体を検出	全体を検出
重複遺構	5号溝跡	なし	なし
形状	平面形	細長い溝状	短い溝状
	断面形	細いU字状	U字状
規模 (cm)	開口部径	395×40	285×18
	底部径	380×20	296×8
	深さ	検出面から75	検出面から25
埋土	色調は黒色・オリーブ黒色・暗オリーブ灰色・暗緑灰色と6層に細分されるが、土性はシルトと粘土質シルトで、種々の土が混入する。	色調は黒色と暗オリーブ灰色に、土性もシルトと粘土質シルトに細分され、灰色土が混入する。	暗オリーブ灰色とオリーブ黒色に細分され、土性もシルトと粘土質シルトになり、灰色土が混入する。
特徴	長軸両端の壁が丸く外方に張り出し、底面はほぼ水平に近く平坦である。	長軸両端底面沿いの壁が外方に突出。底面の一部に掘りすぎがあり、中央が深い。	長軸両端の壁が底面から丸く立ち上がる。底面はほぼ平坦である。
出土遺物	なし	なし	なし
時期	縄文時代と推測	縄文時代と推測	縄文時代か

遺構名	第13号陥し穴状遺構(RZ1029)	第14号陥し穴状遺構(RZ1031)	第15号陥し穴状遺構(RZ1032)	
図版・写真図版	第12図、写真図版4	第12図、写真図版4	第12図、写真図版4	
位置	IV B 2 h グリッド	IV B 3 i グリッド	IV B 4 l・j グリッド	
検出状況	全体を検出	全体を検出	全体を検出	
重複遺構	なし	なし	16号陥し穴状遺構	
形状	平面形	比較的短い溝状	比較的短く幅広の溝状	
	断面形	箱形	U字形状	逆台形状
規模	開口部径	170×36	170×40	155×55
	底部径	170×16	180×20	85×20
(cm) 深さ	検出面から50	検出面から40	検出面から18	
埋土	5層に細分されるが、色調はオリーブ黒色のほか暗緑灰色・暗灰色・暗オリーブ灰色があり、土性は粘土と粘土質シルトである。	色調は黒色とオリーブ灰色の3層に細分され、土性は粘土質シルトを主体に粘土である。	黒色シルトの単層である。	
特徴	長軸両端の壁が内傾し、底面の中央が深くなり、全体が丸味を持つ。	長軸両端の壁が内傾し、底面の中央が深くなり、全体が丸味を持つ。	長軸断面が浅い皿形であり、全体的に浅い。	
出土遺物	なし	なし	なし	
時期	縄文時代と推測	縄文時代と推測	縄文時代と推測	

遺構名	第16号陥し穴状遺構(RZ1033)	第17号陥し穴状遺構(RZ1039)	第18号陥し穴状遺構(RZ1019)	
図版・写真図版	第12図、写真図版4	第12図、写真図版4	第12図、写真図版4	
位置	IV B 3・4 j グリッド	II A 9 h グリッド	III A 2 j グリッド	
検出状況	全体を検出	全体を検出	全体を検出	
重複遺構	15号陥し穴状遺構	2号溝跡	なし	
形状	平面形	比較的短い溝状	細長い溝状	やや幅広で短い溝状
	断面形	Y字状	U字形	V字状的
規模	開口部径	175×33	330×25	190×50
	底部径	175×15	364×12	178×15
(cm) 深さ	検出面から50	検出面から65	検出面から65	
埋土	色調は黒色とオリーブ灰色に細分されるが、土性はシルトを主にシルト質粘土が堆積する。	7層に細分されるが、色調は黒色・黒褐色・暗褐色・灰黄褐色に大別され、土性はシルトと粘土質シルトの互層である。	黒色・黒褐色・ぶい黄褐色の3層に分けられ、土性は粘土質シルトを主体にシルトが堆積する。	
特徴	長軸両端の壁がやや内傾し、底面には僅かな起伏がある。	長軸両端の壁の底面付近が大きく抉られ、底面は僅かに起伏がある。	長軸両端の壁が外傾し、底面には僅かな起伏あるもののほぼ平坦である。	
出土遺物	なし	なし	なし	
時期	縄文時代か	縄文時代か	縄文時代か	

遺構名	第19号陥し穴状遺構 (RZ1020)	第20号陥し穴状遺構 (RZ1018)	
図版・写真図版	第12図、写真図版4	第12図、写真図版4	
位置	ⅢA2 i グリッド	ⅡA0 h グリッド	
検出状況	全体を検出	全体を検出	
重複遺構	なし	280号陥し穴状遺構	
形状	平面形	長楕円形	溝状
	断面形	上部がやや開くU字形	Y字状
規模 (cm)	開口部径	220×65	295×50
	底部径	180×90	338×10
	深さ	検出面から55	検出面から80
埋土	色調が黒色・黒褐色・にぶい黄褐色の3層に細分され、土性は粘土質シルトが主体でシルトが堆積する。	黒色と黒褐色の2層に細分され、土性はシルトと粘土質シルトである。	
特徴	長軸両端の壁が外傾し、底面は長軸両端がやや深くなるもののほぼ平坦である。	長軸両端の壁が大きく扶られ、底面は両端が若干低くなり、中央が軽く盛り上がる。	
出土遺物	なし	なし	
時期	縄文時代と推測	縄文時代と推測	

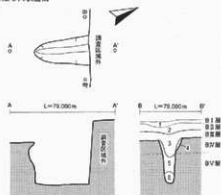
5. 遺構外の出土遺物 (写真図版2)

表土内からロクロ使用成形された土師器製の口縁部～体部上位を残存する破片が1点出土しているが、小破片のため器形など詳細は不明である。

V ま と め

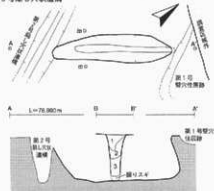
当遺跡の発掘調査は、国道4号花巻東バイパスの建設に伴う、付帯工事の関連として調査したものである。したがって、本体の工事は建設省が担当し、県の担当は国道の両側敷設される側道部分のみであり、面積には多くない。しかし、本線分の調査では平安時代の住居跡をはじめ、縄文時代の陥し穴状遺構が多く発見されており、当調査範囲で検出された遺構は、本線分で検出された遺構の分布範囲が当調査範囲で広がっていることを示すものであり、本来は本線分の遺構も含めて考えるべきものである。

第1号陥し穴状遺構



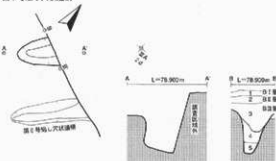
- 第1号陥し穴状遺構 (H2700)
1. 1979.2.23 深褐色 シルト質 瓦し 瓦し 腐葉の植物体遺構が埋まり残っており、草の根のこもった状態で残している。
 2. 1979.2.23 深褐色 シルト質 瓦し 瓦し 1979年2月23日の埋設層から約1m〜1.5mを掘るとここに埋設層が現れる。
 3. 1979.2.27 深褐色 シルト質 中々有り 中々有り 埋設層の1と埋設層の上の間に約10cmの隙間がある。
 4. 1979.2.27 深褐色 粘土質シルト 中々有り 中々有り 1979年2月27日の埋設層を掘ると約1m〜1.5mの間に埋設層がある。
 5. 1979.2.27 深褐色 粘土質シルト 中々有り 中々有り 埋設層の上の間に約10cmの隙間がある。
 6. 1979.2.27 深褐色 シルト質 瓦し 中々有り 中々有り 埋設層の上の間に約10cmの隙間がある。

第3号陥し穴状遺構



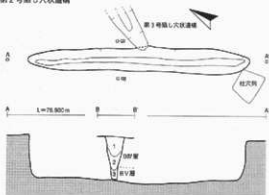
- 第3号陥し穴状遺構 (H2700)
1. 1979.2.27 深褐色 シルト質 中々有り 中々有り 埋設層の上の間に約10cmの隙間がある。
 2. 1979.2.27 深褐色 粘土質シルト 中々有り 中々有り 1979年2月27日の埋設層を掘ると約1m〜1.5mの間に埋設層がある。
 3. 1979.2.27 深褐色 シルト質 瓦し 中々有り 中々有り 埋設層の上の間に約10cmの隙間がある。

第5号陥し穴状遺構



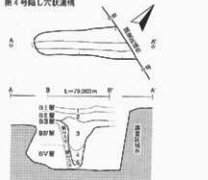
- 第5号陥し穴状遺構 (H2700)
1. 基本土層の1層
 2. 基本土層の2層
 3. 1979.2.27 深褐色 シルト質 中々有り 中々有り
 4. 1979.2.27 深褐色 粘土質シルト 中々有り 中々有り
 5. 1979.2.27 深褐色 シルト質 瓦し 中々有り 中々有り

第2号陥し穴状遺構



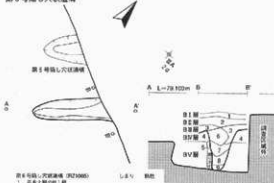
- 第2号陥し穴状遺構 (H2700)
1. 1979.2.27 深褐色 シルト質 中々有り 中々有り 埋設層の上の間に約10cmの隙間がある。
 2. 1979.2.27 深褐色 粘土質シルト 中々有り 中々有り 1979年2月27日の埋設層を掘ると約1m〜1.5mの間に埋設層がある。
 3. 1979.2.27 深褐色 シルト質 瓦し 中々有り 中々有り 埋設層の上の間に約10cmの隙間がある。

第4号陥し穴状遺構



- 第4号陥し穴状遺構 (H2700)
1. 基本土層の1層
 2. 基本土層の2層
 3. 1979.2.27 深褐色 シルト質 中々有り 中々有り
 4. 1979.2.27 深褐色 粘土質シルト 中々有り 中々有り
 5. 1979.2.27 深褐色 シルト質 瓦し 中々有り 中々有り

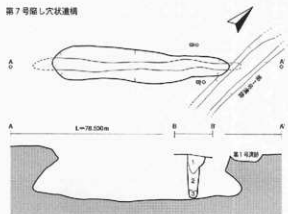
第6号陥し穴状遺構



- 第6号陥し穴状遺構 (H2700)
1. 基本土層の1層
 2. 基本土層の2層
 3. 基本土層の3層
 4. 基本土層の4層
 5. 基本土層の5層
 6. 基本土層の6層
 7. 1979.2.27 深褐色 シルト質 中々有り 中々有り
 8. 1979.2.27 深褐色 粘土質シルト 中々有り 中々有り
 9. 1979.2.27 深褐色 シルト質 瓦し 中々有り 中々有り

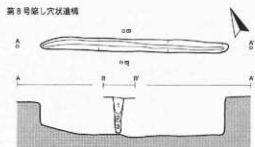
第10図 第1号〜第6号陥し穴状遺構

第7号陥し穴状遺構



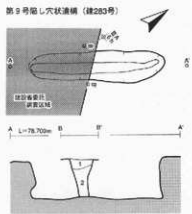
- 第7号陥し穴状遺構 (JZ1000) しまり 陥坑
1. 10YR2/1 褐色 シルト質 やや中り やや中り 褐色土と腐植土層の上層部。10YR4/3に似る褐色土層の中層部から採取されたもの。
 2. 10YR2/1 褐色 粘土質シルト やや中り 中り 10YR2/3の腐植土層の上層部がアロックス層。埋没腐植土層のものをこの層に分類してこのように記述するものとする。
 3. 10YR2/2 褐色 粘土質 中し やや中り 10YR2/3の腐植土層のアロックス層が減少している。

第8号陥し穴状遺構



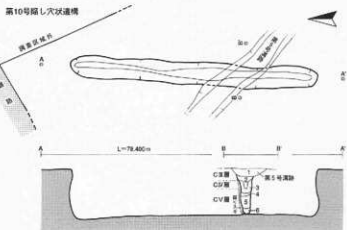
- 第8号陥し穴状遺構 (JZ1000) しまり 陥坑
1. 10YR2/1 褐色 シルト質 やや中り やや中り 褐色土と腐植土層の上層部。10YR4/3に似る褐色土層の中層部から採取されたもの。
 2. 10YR2/2 褐色 粘土質シルト やや中り 中り 10YR2/3の腐植土層の上層部がアロックス層。埋没腐植土層のものをこの層に分類してこのように記述するものとする。
 3. 10YR2/3 褐色 シルト質 中し やや中り 10YR2/3の腐植土層のアロックス層が減少している。

第9号陥し穴状遺構 (緯283号)



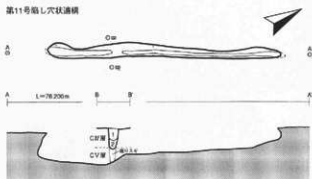
- 第9号陥し穴状遺構 (JZ1000) [埋没層 陥坑] しまり 陥坑
1. 10YR2/1 褐色 シルト質 中り 中り中り 10YR2/3の腐植土層のアロックス層 (約1m) 中層部から採取されたもの。
 2. 10YR2/2 褐色 粘土質シルト 中り 中り中り 10YR2/3の腐植土層の上層部がアロックス層。
 3. 10YR2/2 褐色 粘土質シルト 中り中り 中り中り 10YR2/3の腐植土層の上層部がアロックス層が減少している。

第10号陥し穴状遺構



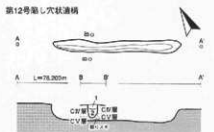
- 第10号陥し穴状遺構 (JZ1000) しまり 陥坑
1. 10YR2/1 褐色 シルト質 中り中り 中り中り 10YR2/3の腐植土層のアロックス層約3m-1mの層から採取されたもの。
 2. 7.5Y 2/1 灰色 シルト質 中り中り 中り中り 褐色土と腐植土層の上層部から採取されたもの。
 3. 10YR2/1 褐色 粘土質 中り中り 中り中り 10YR2/3の腐植土層の上層部から採取されたもの。
 4. 5GY 4/1 オリーブ黄 粘土質 中し 中り 褐色土 (埋没腐植土) に類似している。褐色土の層から採取されたもの。
 5. 5GY 4/1 オリーブ黄 粘土質シルト 中し 中り 褐色土 (埋没腐植土) に類似している。埋没腐植土層の上層部から採取されたもの。
 6. 5GY 3/1 オリーブ黄 粘土質シルト 中し 中り 褐色土 (埋没腐植土) に類似している。埋没腐植土層の上層部から採取されたもの。

第11号陥し穴状遺構



- 第11号陥し穴状遺構 (JZ1000) しまり 陥坑
1. 7.5Y 2/1 灰色 シルト質 中り中り 褐色土 (埋没腐植土) と褐色土の上層部から採取されたもの。
 2. 7.5GY 4/1 オリーブ黄 粘土質シルト 中り中り 中り 褐色土 (埋没腐植土) と褐色土の上層部から採取されたもの。
 3. 7.5GY 3/1 粘土質 粘土質 中り 中り中り CV層の上層部から採取されたもの。

第12号陥し穴状遺構

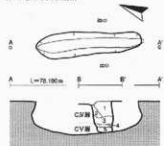


- 第12号陥し穴状遺構 (JZ1000) しまり 陥坑
1. 7.5Y 2/1 灰色 シルト質 中り中り 褐色土と褐色土 (埋没腐植土) と褐色土の上層部から採取されたもの。
 2. 5GY 2/1 オリーブ黄 シルト質 中し 中り中り 褐色土と褐色土 (埋没腐植土) と褐色土の上層部から採取されたもの。

0 1:60 2m

第11図 第7号~第12号陥し穴状遺構

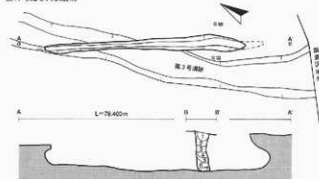
第13号陥し穴状遺構



第13号陥し穴状遺構 (建2120)

- | 1. 1.0V 3/1 | オリーブ灰 | 粘土層シロト | 灰 | 中～中層 | 黄色土に褐色土 (埋藏物なし) | 約2～3cmのワラや草茎など。厚さ約1cm。 |
|-------------|--|--|--|------|-----------------|------------------------|
| 2. 7.5V 4/1 | 黄褐色土 <td>粘土層 <td>灰 <td>中層</td> <td>黄色土に褐色土 (埋藏物なし)</td> <td>厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。</td> </td></td> | 粘土層 <td>灰 <td>中層</td> <td>黄色土に褐色土 (埋藏物なし)</td> <td>厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。</td> </td> | 灰 <td>中層</td> <td>黄色土に褐色土 (埋藏物なし)</td> <td>厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。</td> | 中層 | 黄色土に褐色土 (埋藏物なし) | 厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。 |
| 3. 7.0V 4/1 | 黄褐色土 <td>粘土層</td> <td>灰</td> <td>中層</td> <td>黄色土に褐色土 (埋藏物なし)</td> <td>厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。</td> | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土 (埋藏物なし) | 厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。 |
| 4. 1.0V 2/1 | 黄褐色土 <td>粘土層</td> <td>灰</td> <td>中層</td> <td>黄色土に褐色土 (埋藏物なし)</td> <td>厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。</td> | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土 (埋藏物なし) | 厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。 |
| 5. 2.5V 2/1 | 黄褐色土 <td>粘土層</td> <td>灰</td> <td>中層</td> <td>黄色土に褐色土 (埋藏物なし)</td> <td>厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。</td> | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土 (埋藏物なし) | 厚さ約1cm。ワラや草茎など。厚さ約1cm。 |

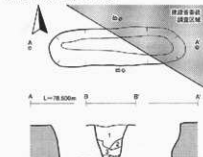
第17号陥し穴状遺構



第17号陥し穴状遺構 (建2120)

- | 1. 1.0V 2/1 | 灰 | シロト | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 土層は比較的均一。 |
|--|------|-----|---|----|------------------------|-----------|
| 2. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>土層は比較的均一。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 土層は比較的均一。 |
| 3. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>土層は比較的均一。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 土層は比較的均一。 |
| 4. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>土層は比較的均一。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 土層は比較的均一。 |
| 5. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>土層は比較的均一。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 土層は比較的均一。 |
| 6. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>土層は比較的均一。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 土層は比較的均一。 |
| 7. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>土層は比較的均一。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 土層は比較的均一。 |

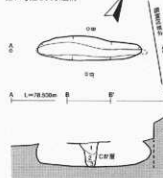
第19号陥し穴状遺構 (建291号)



第19号陥し穴状遺構 (建291号) [埋藏物なし]

- | 1. 1.0V 2/1 | 灰 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 埋藏物なし | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 |
|--|------|-----|---|----|-------|--------------------------------|
| 2. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>埋藏物なし</th> <th>埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 埋藏物なし | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 |
| 3. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>埋藏物なし</th> <th>埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 埋藏物なし | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 |
| 4. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>埋藏物なし</th> <th>埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 埋藏物なし | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 |

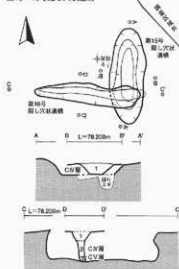
第14号陥し穴状遺構



第14号陥し穴状遺構 (建2120)

- | 1. 1.0V 2/1 | 灰 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土 (埋藏物なし) | 約2～4cmのプロット付。厚さ約1cm。埋藏物なし。 |
|---|---|-----|---|----|-----------------|----------------------------|
| 2. 1.0V 2/1 <th>灰</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>約2～4cmのプロット付。厚さ約1cm。埋藏物なし。</th> | 灰 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土 (埋藏物なし) | 約2～4cmのプロット付。厚さ約1cm。埋藏物なし。 |
| 3. 1.0V 2/1 <th>灰</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>約2～4cmのプロット付。厚さ約1cm。埋藏物なし。</th> | 灰 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土 (埋藏物なし) | 約2～4cmのプロット付。厚さ約1cm。埋藏物なし。 |
| 4. 1.0V 2/1 <th>灰</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>約2～4cmのプロット付。厚さ約1cm。埋藏物なし。</th> | 灰 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土 (埋藏物なし) | 約2～4cmのプロット付。厚さ約1cm。埋藏物なし。 |

第15・16号陥し穴状遺構



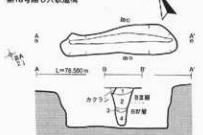
第15号陥し穴状遺構 (建2120)

- | 1. 2.5V 2/1 | 灰 | シロト | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 厚さ約1cm。埋藏物なし。 |
|---|---|-----|---|----|------------------------|---------------|
| 2. 2.5V 2/1 <th>灰</th> <th>シロト</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>厚さ約1cm。埋藏物なし。</th> | 灰 | シロト | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 厚さ約1cm。埋藏物なし。 |

第16号陥し穴状遺構 (建2120)

- | 1. 2.5V 2/1 | 灰 | シロト | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 厚さ約1cm。埋藏物なし。 |
|---|---|-----|---|----|------------------------|---------------|
| 2. 2.5V 2/1 <th>灰</th> <th>シロト</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし)</th> <th>厚さ約1cm。埋藏物なし。</th> | 灰 | シロト | 灰 | 中層 | 黄色土に褐色土に近い黄褐色土 (埋藏物なし) | 厚さ約1cm。埋藏物なし。 |

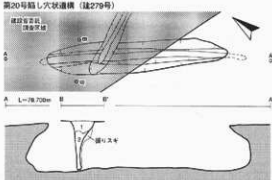
第18号陥し穴状遺構



第18号陥し穴状遺構 (建2120)

- | 1. 1.0V 2/1 | 灰 | シロト | 灰 | 中層 | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 | 埋藏物なし。 |
|---|------|-----|---|----|--------------------------------|--------|
| 2. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。</th> <th>埋藏物なし。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 | 埋藏物なし。 |
| 3. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。</th> <th>埋藏物なし。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 | 埋藏物なし。 |
| 4. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。</th> <th>埋藏物なし。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 | 埋藏物なし。 |

第20号陥し穴状遺構 (建279号)



第20号陥し穴状遺構 (建279号) [埋藏物なし]

- | 1. 1.0V 2/1 | 灰 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 埋藏物なし | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 |
|--|------|-----|---|----|-------|--------------------------------|
| 2. 1.0V 2/1 <th>黄褐色土</th> <th>粘土層</th> <th>灰</th> <th>中層</th> <th>埋藏物なし</th> <th>埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。</th> | 黄褐色土 | 粘土層 | 灰 | 中層 | 埋藏物なし | 埋藏物なしと認められる約2cmにわたる黄褐色土にプロット付。 |

第12図 第13号～第20号陥し穴状遺構

写真図版



遺跡全景写真（空撮E-1）



遺構検出状況



遺跡の近、遠景

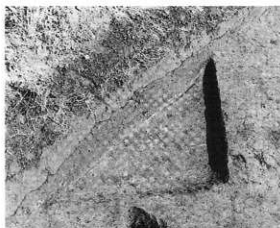


遺跡の近、遠景



遺跡の近、遠景

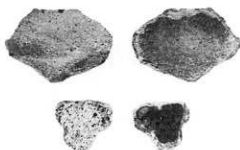
写真図版1 遺跡全景・遺構検出状況・遺跡の近、遠景



第1号竖穴住居跡完掘



貼り床をはがしたあと



同出土遺物



遺構外出土遺物



第1号陥し穴完掘



第2号陥し穴完掘



第3号陥し穴完掘



第4号陥し穴完掘



第1号陥し穴断面



第2号陥し穴断面



第3号陥し穴断面



第4号陥し穴断面

写真図版2 第1号竖穴住居跡・同出土遺物、遺構外出土遺物・第1号～第4号陥し穴状遺構



第5号陥し穴完掘



第6号陥し穴完掘



第7号陥し穴完掘



第8号陥し穴完掘



第5号陥し穴断面



第6号陥し穴断面



第7号陥し穴断面



第8号陥し穴断面



第9号陥し穴完掘



第10号陥し穴完掘



第11号陥し穴完掘



第12号陥し穴完掘



第9号陥し穴断面



第10号陥し穴断面



第11号陥し穴断面



第12号陥し穴断面

写真図版3 第5号～第12号陥し穴状遺構



第13号陥し穴完掘



第14号陥し穴完掘



第15号陥し穴完掘



第16号陥し穴完掘



第13号陥し穴断面



第14号陥し穴断面



第15号陥し穴断面



第16号陥し穴断面



第17号陥し穴完掘



第18号陥し穴完掘



第19号陥し穴完掘



第20号陥し穴完掘



第17号陥し穴断面



第18号陥し穴断面



第19号陥し穴断面



第20号陥し穴断面

写真図版4 第13号～第20号陥し穴状遺構



第1号柱穴列完掘



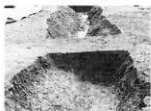
第1号溝跡(東から)



第1号溝跡(南から)



II A9c~9h区完掘状況



第1号溝跡B-B'断面



第1号溝跡A-A'断面



遺構検出状況



第2号・3号溝跡完掘



第4号溝跡完掘



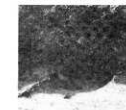
第5号溝跡完掘



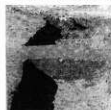
第6号溝跡完掘



第2・3号溝跡断面



第4号溝跡断面



第5号溝跡断面



第6号溝跡断面

写真図版5 第1号柱穴列・第1号~第6号溝跡

報告書抄録

ふりがな	いしもちいちいせきはつつちようさほうこくしょ							
書名	石持1遺跡発掘調査報告書							
副書名	一般県道東和花巻温泉線改良工事関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第380集							
編著者名	早坂悟、平澤里香、高橋與右衛門							
編集機関	跡岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 盛岡市下飯岡11-185 ㉞ (019) 638-9001							
発行年月日	西暦2000年11月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしもちいちいせき 石持1遺跡	いせきけんひらねまち 岩手県花巻市 あまのま 宮野目9地割1	03206	ME -16-2117	39度24分	140度53分	19990817	1,326	一般県道東 和花巻温泉 線改良工事 に伴う緊急 発掘調査
				~	~	~		
				39度33分	141度14分	19991017		
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
	時期不明	溝跡6条 柱穴列1条		なし なし				
	平安時代	竪穴住居1棟		なし				
	縄文時代	陥し穴状遺構20基		なし				

平成12年度財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

【職員】

所 長 伊 藤 民 也

副 所 長 櫻 田 次 男

【管理課】

管 理 課 長 川 浪 清 徳
 管理課長補佐 山 崎 善 光
 主 査 立 花 多加志
 主 事 日 影 睦 夫

嘱 託 千 葉 芳 夫
 " 藤 島 恵 子
 " 新 田 卜 三
 " 佐 々 木 光 重

【調査第一課】

調査第一課長 佐々木 勝
 調査第一課長補佐 佐々木 清 文
 主任文化財調査員 小山内 透
 専門文化財調査員 赤 石 登
 " 吉 田 充
 " 小 原 眞 一
 " 小笠原 健一郎
 " 金 野 進
 " 鳥 居 達 人
 " 金 子 昭 彦
 " 東海林 淳 美
 " 阿 部 勝 則
 " 羽 柴 直 人
 " 小野寺 正 之
 " 菅 原 靖 男
 " 長 村 克 稔
 " 瀧 浩 二 郎
 " 菊 池 貴 広
 " 村 上 拓
 " 本 多 準 一郎
 " 北 村 忠 昭
 " 丸 山 浩 治
 " 村 木 敬 敏
 初 級 調 査 員 小 林 弘 卓
 " 江 藤 敦 徳
 " 藤 原 賢 徳 (6月退職)
 " 菊 池 賢 介
 " 井 上 信 晋
 " 川 又 晋
 " 吉 田 真 由 美
 " 北 田 博 義

【調査第二課】

調査第二課長 高橋 與右衛門
 調査第二課長補佐 中 川 重 紀
 主任文化財調査員 高 橋 義 介
 専門調査員 金 子 佐 知 子
 " 中 田 迪
 文化財専門調査員 工 藤 道 孝
 " 古 館 眞 身
 " 阿 部 眞 澄
 " 松 尾 芳 幸
 " 工 藤 徹 敬
 " 前 田 稔 計
 " 岩 湖 計 悟 宏
 " 早 坂 由 紀 夫
 " 濱 田 藤 木
 " 安 高 晃
 " 高 千 葉 正 彦
 " 佐 藤 淳 一
 " 半 澤 武 彦
 " 杉 沢 昭 太 郎
 " 中 村 直 美
 " 星 雅 之
 初 級 調 査 員 鈴 木 聡
 " 吉 川 徹
 " 北 田 勲
 " 吉 田 里 和
 " 吉 田 美 津 子
 " 原 齋 藤 紀 子
 " 藤 島 原 弘 征

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第360集

石持 I 遺跡発掘調査報告書

一般県道東和花巻温泉線改良工事関連遺跡発掘調査

印刷 平成12年11月22日

発行 平成12年11月30日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電話 (019) 638-9001

印刷 トーバン印刷株式会社

〒020-0823 岩手県盛岡市門二丁目2-3

電話 (019) 653-6333(代)

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター ©1999